

# 横浜市がんに関するアンケート 調査結果報告書

2024年1月  
横浜市医療局

## がんに関する認識

- 問1 04  
あなた自身を含め、家族、親族や親しい同僚など身近な人で、がんにかかった人はいますか。
- 問2 04  
あなたは、がんについてどのような印象を持っていますか。
- 問3 05  
もしあなたががんになった場合にこわいと思う理由は何ですか。

## がん検診

- 問4 06  
あなたは、胃がん検診（バリウムによるレントゲン撮影、内視鏡検査など含む）を受けたことがありますか。
- 問5 06  
あなたは、肺がん検診（胸の単純 X 線撮影、喀痰検査など含む）を受けたことがありますか。
- 問6 07  
あなたは、大腸がん検診（便潜血反応検査(検便) など）を受けたことがありますか。
- 問7 07  
あなたは、子宮頸がん検診（女性のみ）を受けたことがありますか。
- 問8 08  
あなたは、乳がん検診（女性のみ）を受けたことがありますか。
- 問9 08  
一度でも何らかのがんに関する検診を受診された方で、それは、主にどのような機会に受診しましたか。
- 問10 09  
2年以内に受診したがん検診を除いて、最近がん検診を受けない理由は、主に何が理由ですか。

## がんに関する治療について

- 問11 10  
あなたは、がんと診断されたらどこで治療を受けたいと思いますか。

問 12	10
あなたは、がんと診断されたら、治療を受ける病院を選ぶにあたり重視するのはどれですか。	
問 13	11
「がん相談支援センター（がん診療連携拠点病院の相談窓口）」を知っていますか。	
問 14	12
あなたは、がんと診断されたら、ご自身のがんの治療法や病院について、どこから情報を入手しようと思いますか。	
問 15	13
あなたは、がんと診断されたら、どんな治療を受けたいですか。	
問 16	13
あなたは、がんゲノム医療について知っていますか。	
問 17	14
がん医療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みを和らげることですが、あなたは、がん医療における緩和ケアについて知っていましたか。	
問 18	14
あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思いますか。	
問 19	15
あなたは、がんに対する終末期の緩和ケアをどこで受けたいと思いますか。	

## がんとの共生

問 20	16
あなたは、がんと診断されたら、がんに対する不安や治療などについてだれに相談したいと思いますか。	
問 21	17
あなたの職場では、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。	
問 22	18
がんの治療中に働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか。	
問 23	19
あなたは、がん対策について、市としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。	

## 調査概要

### ■ 調査目的

本調査は、市民のがんに対する意識、実態等の現状及びその推移を明らかにすることで、今後の横浜市の施策をさらに推進するために実施した。

### ■ 調査対象

調査対象：横浜市内在住の満18歳以上の男女（外国籍市民を含む）

抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出

### ■ 調査方法

郵送配布、郵送・インターネット回答

### ■ 調査期間

令和5年8月1日～8月31日

### ■ 回収結果

- (1) 調査対象者数 3,000 人
- (2) 有効回答者数 1,100 人
- (3) 有効回答率 36.6%

### ■ 注意事項

図（グラフ）の中で使用されているアルファベットNは、その設問に対する回答者数をあらわしている。

回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。

## 市民アンケートから分かる横浜市民のがんへの意識

身近な人で、がんにかかった人がいる人の割合

**84.2%**

約10人に8人

市内のがん診療連携拠点病院・がん診療連携指定病院で治療を受けたいと思っている人の割合

**66.7%**

身近なクリニック・病院 9.5%

がん相談支援センター（がん診療連携拠点病院の相談窓口）を知っている人の割合

**34.8%**

がんと診断されたら、科学的根拠に基づく標準治療を希望する人の割合

**76.5%**

がんに対する緩和ケアは、がんと診断されたときから実施されるべきものと思っている人の割合

**42.2%**

がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思う人の割合

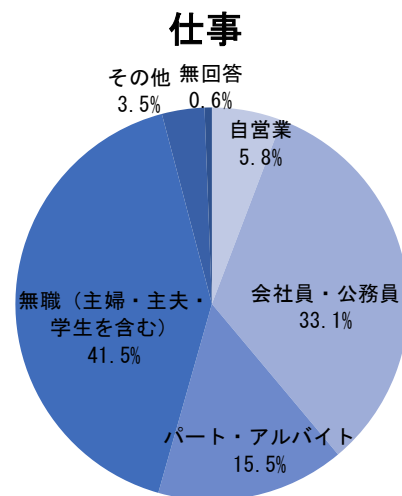
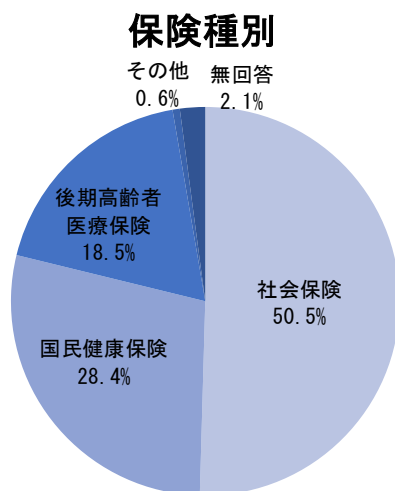
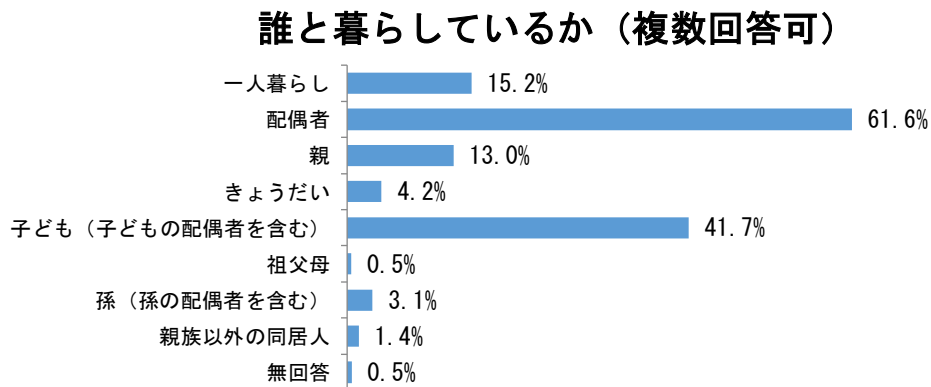
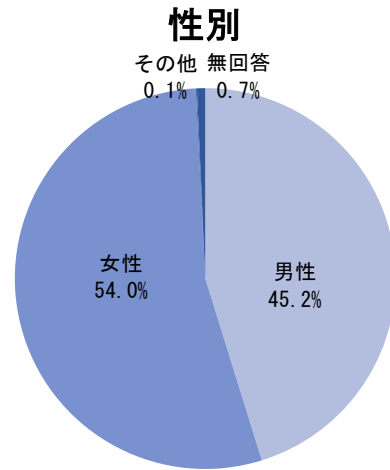
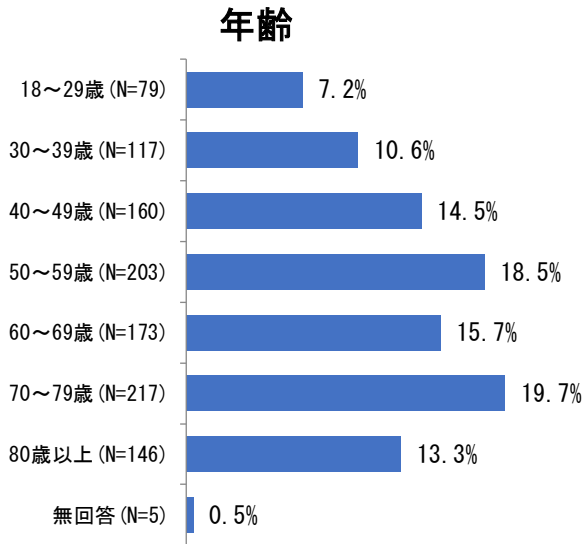
**77.9%**



POINT!!

市に力を入れて欲しいがん対策として、医療機関の整備(72.5%)や人材育成(54.2%)だけでなく、**がんに関する相談やその支援(46.9%)**、**がん検診など早期発見のための取組(46.1%)**、**がんに関する情報提供(37.5%)**などの対策が求められている。

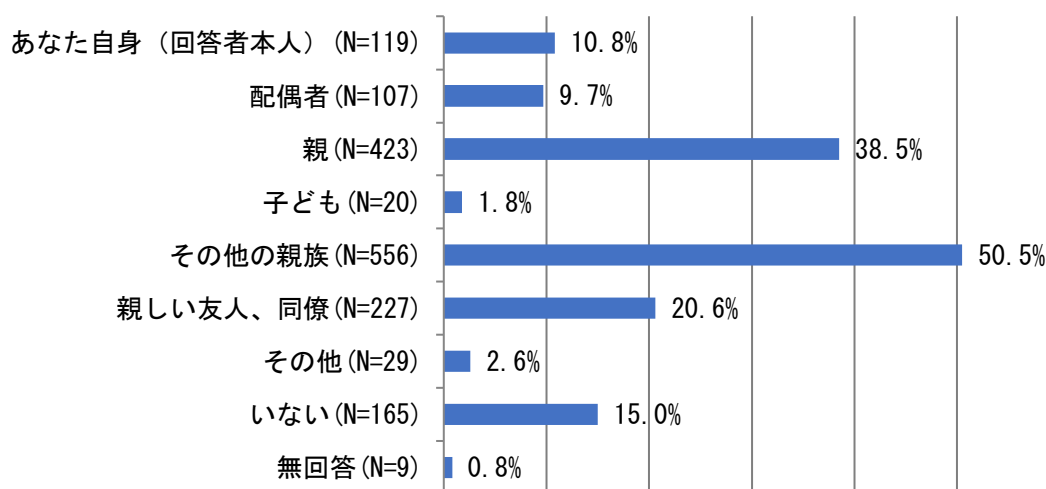
# 回答者プロフィール N=1,100



## がんに関する認識

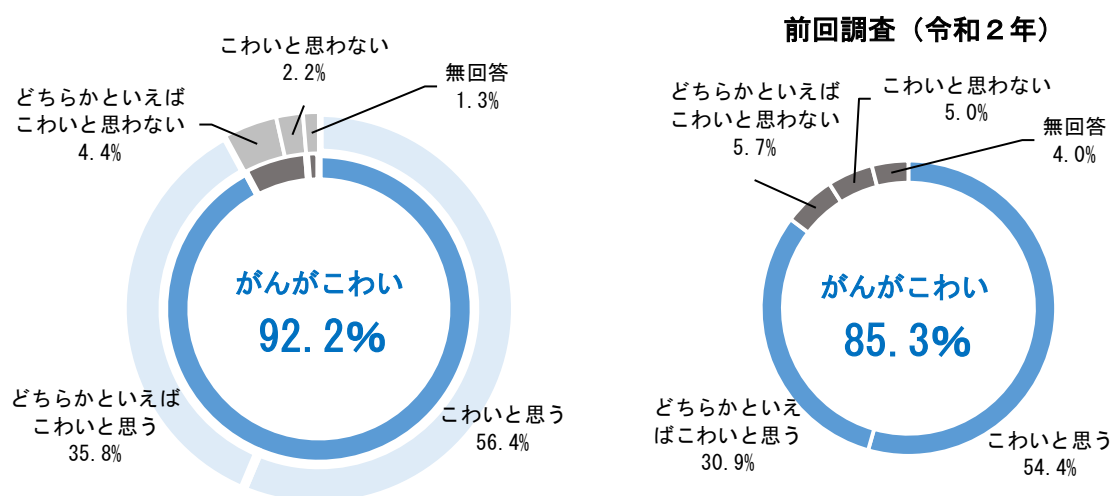
問1 あなた自身を含め、家族、親族や親しい同僚など身近な人で、がんにかかった人はいますか。(複数回答) N=1,100

1,100人の回答者のうち、「いない」と答えた方は15.0%で165人  
約10人に8人は身近でがんにかかった人がいる。



問2 あなたは、がんについてどのような印象を持っていますか。 N=1,100

「こわいと思う」「どちらかといえばこわいと思う」あわせて92.2%の人ががんをこわいと思っている。

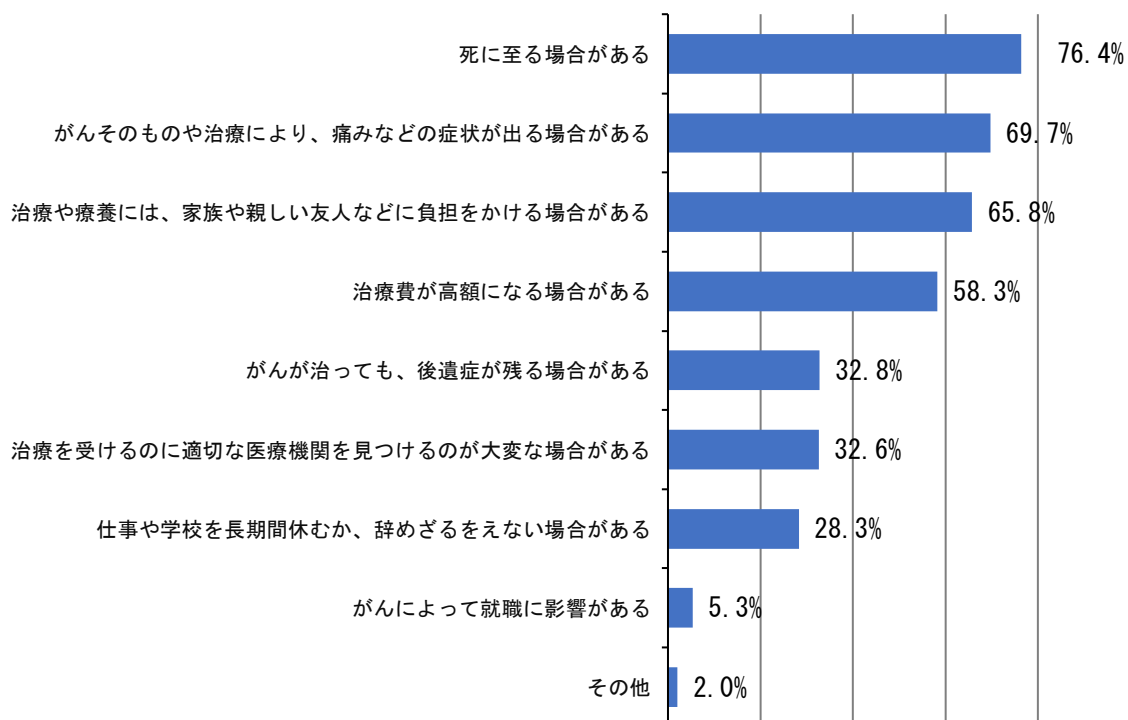


がんをこわいと思っている割合は前回調査の85.3%から今回調査の92.2%へ6.9ポイントアップした。

### 問3 もしあなたががんになったらこわいと思う理由は何ですか。(複数回答) N=1,014

※有効回答の内訳を表示 (問2で「こわいと思う」「どちらかといえばこわいと思う」と回答した人への質問)

「がんで死に至る場合があるから」が最も多く76.4%、次いで「がんそのものや治療により、痛みなどの症状が出る場合があるから」が69.7%と続く。



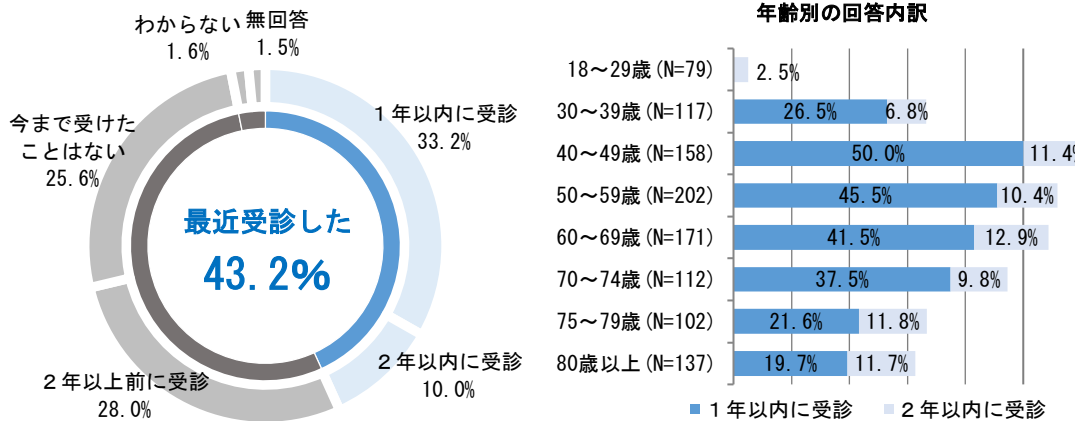
#### 年齢別の順位 (複数回答)

年齢	1位	2位	3位
18~29歳	死に至る場合がある 85.7%	痛みなどの症状が出る場合がある 72.7%	家族や友人へ負担をかける 59.7%
30~39歳	死に至る場合がある 83.3%	痛みなどの症状が出る場合がある 67.5%	家族や友人へ負担をかける 64.0%
40~49歳	死に至る場合がある 76.2%	痛みなどの症状が出る場合がある 71.5%	治療費が高額だから 64.2%
50~59歳	死に至る場合がある 79.8%	痛みなどの症状が出る場合がある 72.9%	家族や友人へ負担をかける 72.3%
60~69歳	死に至る場合がある 73.6%	痛みなどの症状が出る場合がある 71.7%	家族や友人へ負担をかける 69.2%
70~79歳	死に至る場合がある 75.0%	痛みなどの症状が出る場合がある 71.9%	家族や友人へ負担をかける 69.3%
80歳以上	死に至る場合がある 67.7%	痛みなどの症状が出る場合がある 59.2%	家族や友人へ負担をかける 57.7%



## がん検診

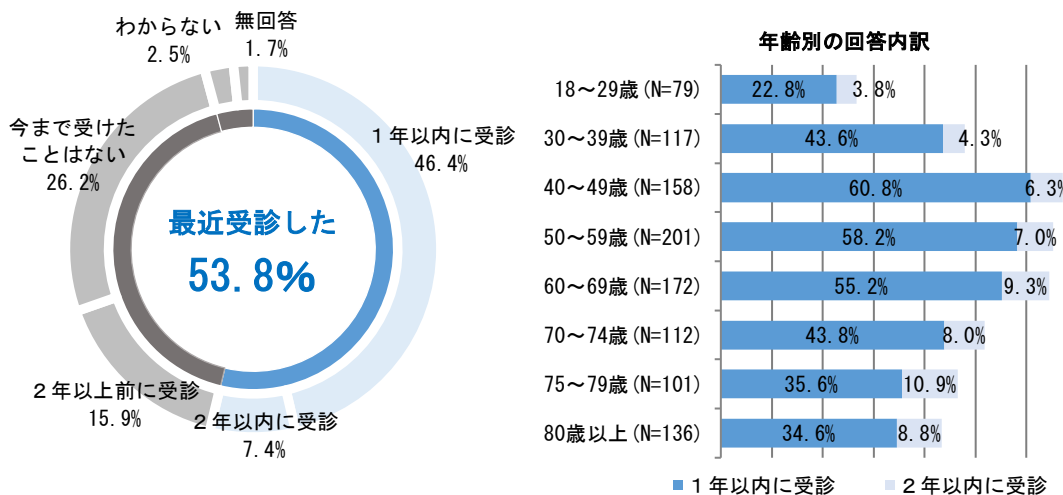
問4 あなたは、胃がん検診（バリウムによるレントゲン撮影、内視鏡検査など含む）を受けたことがありますか。N=1,100



1年以内に受診した人は**33.2%**、2年以内に受診した人は**10.0%**、年齢別にみると、最近受診した人は40～49歳で1番多く**61.4%**、次いで50～59歳で**55.9%**

※横浜市での胃がん検診は、**50歳以上**を対象に行っています。

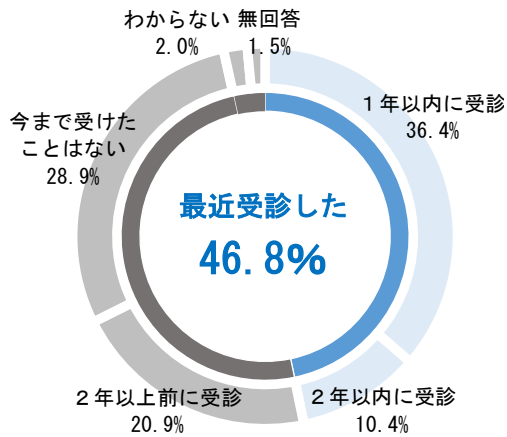
問5 あなたは、肺がん検診（胸の単純 X 線撮影、喀痰検査など含む）を受けたことがありますか。N=1,100



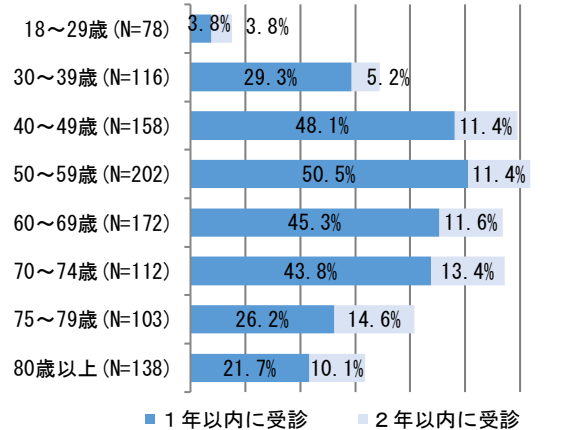
1年以内に受診した人は**46.4%**、2年以内に受診した人は**7.4%**、年齢別にみると、最近受診した人は40～49歳で1番多く**67.1%**、次いで50～59歳で**65.2%**

※横浜市での肺がん検診は、**40歳以上**を対象に行っています。

**問6 あなたは、大腸がん検診（便潜血反応検査(検便) など）を受けたことがありますか。N=1,100**



年齢別の回答内訳

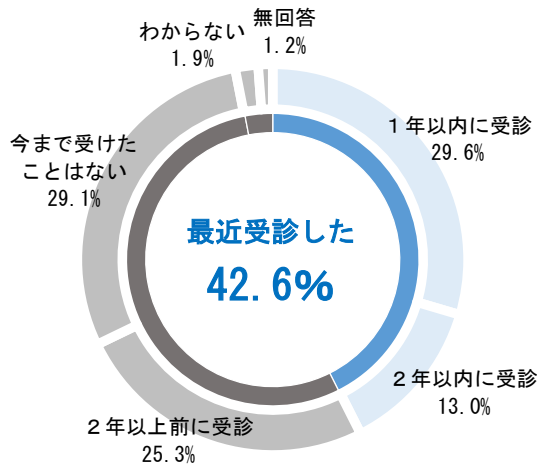


1年以内に受診した人は**36.4%**、2年以内に受診した人は**10.4%**、年齢別にみると、最近受診した人は**50～59歳**で1番多く**61.9%**、次いで**40～49歳**で**59.5%**

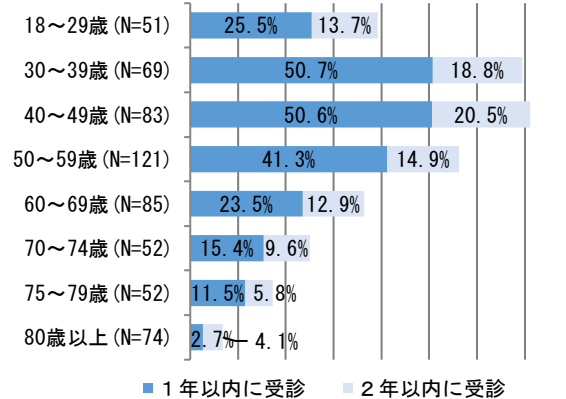
※横浜市での大腸がん検診は、**40歳以上**を対象に行っています。

**問7 あなたは、子宮頸がん検診（女性のみ）を受けたことがありますか。N=594**

※有効回答の内訳を表示



年齢別の回答内訳

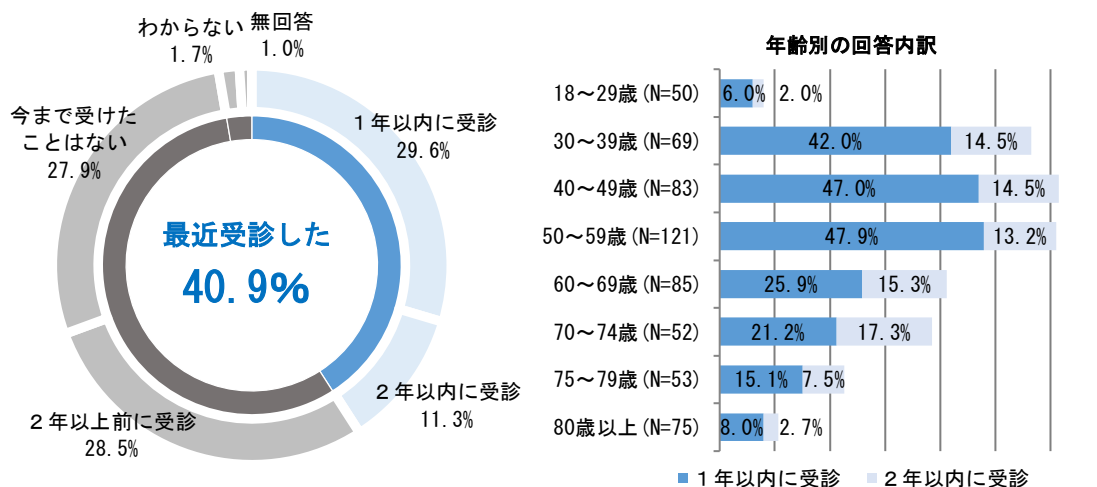


1年以内に受診した人は**29.6%**、2年以内に受診した人は**13.0%**、年齢別にみると、最近受診した人は**40～49歳**で1番多く**71.1%**、次いで**30～39歳**で**69.5%**

※横浜市での子宮頸がん検診は、**20歳以上**を対象に行っています。

## 問8 あなたは、乳がん検診（女性のみ）を受けたことがありますか。N=594

※有効回答の内訳を表示



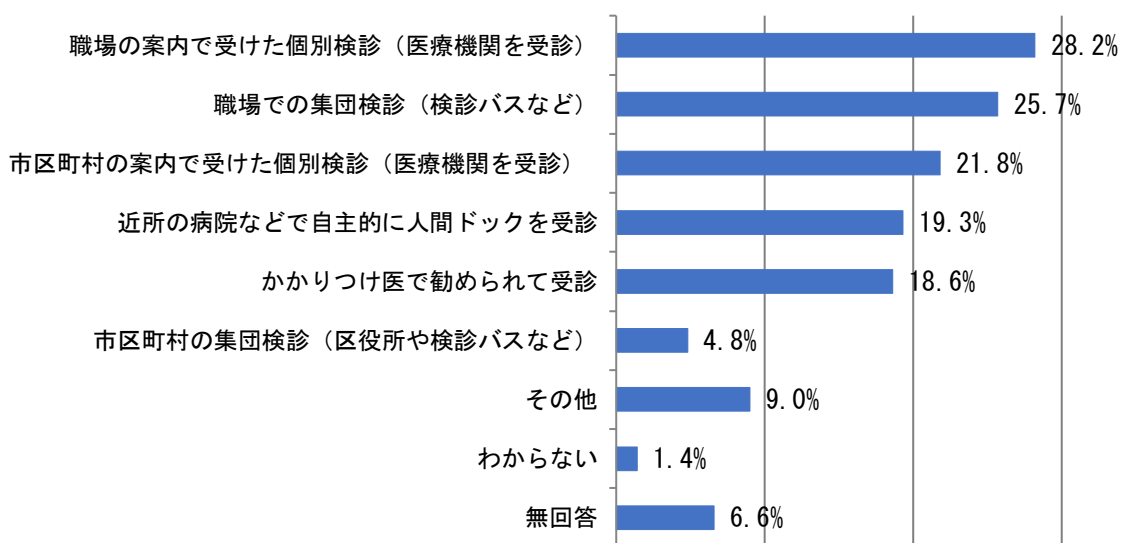
1年以内に受診した人は29.6%、2年以内に受診した人は11.3%、年齢別にみると、最近受診した人は40～49歳で1番多く61.5%、次いで50～59歳で61.1%

※横浜市での乳がん検診は、40歳以上を対象に行っています。

## 問9 一度でも何らかのがんに関する検診を受診された方で、それは、主にどのような機会に受診しましたか。（複数回答） N=957

※有効回答の内訳を表示

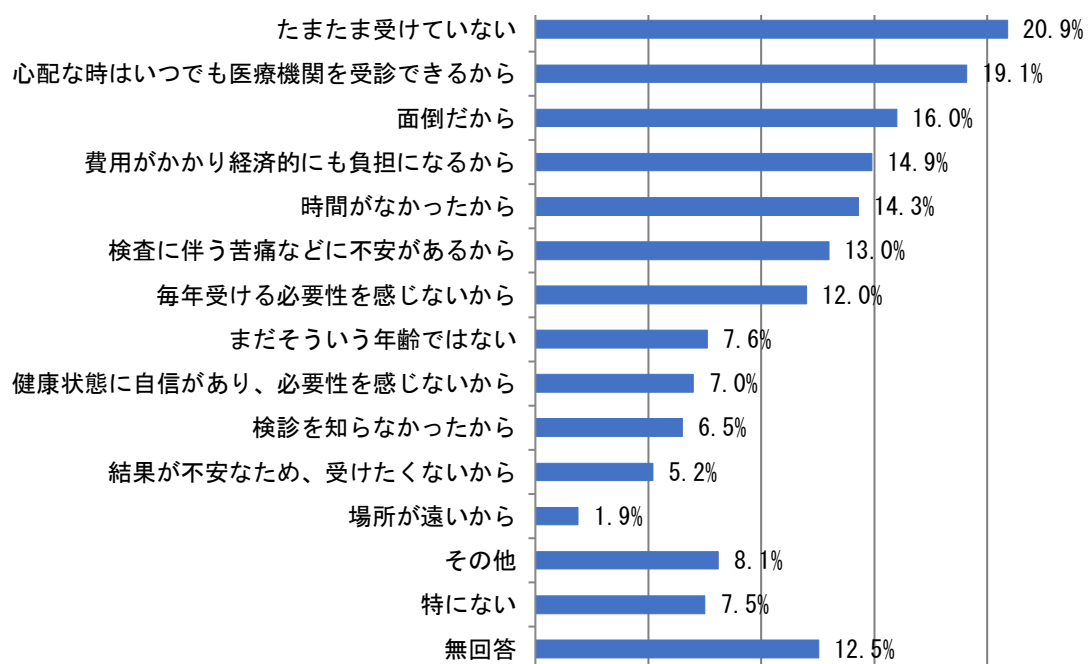
「職場の案内で受けた個別検診」が最も多く28.2%、次いで「職場での集団検診」が25.7%、「市町村の案内で受けた個別検診」が21.8%と続く



## 問 10 2年以内に受診したがん検診を除いて、最近がん検診を受けない理由は、主に何が理由ですか。(複数回答) N=805

※有効回答の内訳を表示

「たまたま受けていない」が最も多く 20.9%、次いで「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が 19.1%と続く



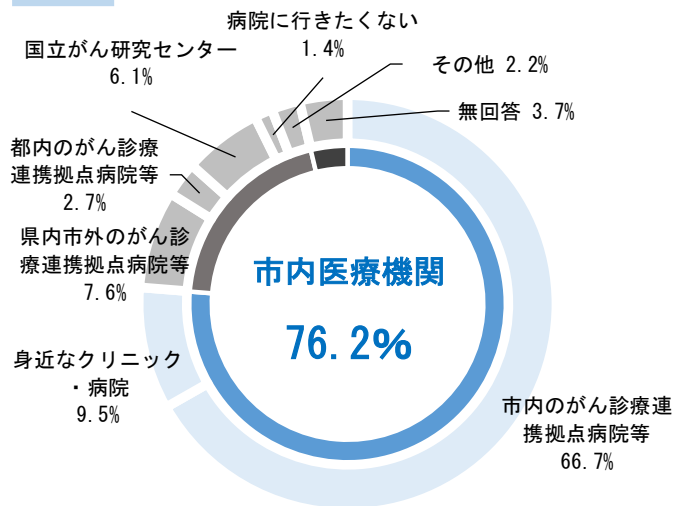
### 年齢別の順位 (複数回答)

年齢	1位	2位	3位
18～29歳	まだそういう年齢ではない 48.5%	時間がなかった 23.5%	面倒だから 23.5%
30～39歳	まだそういう年齢ではない 28.4%	時間がなかった 27.2%	経済的に負担になる 25.9%
40～49歳	面倒だから 34.1%	時間がなかった 30.6%	経済的に負担になる 24.7%
50～59歳	たまたま受けていない 25.0%	時間がなかった 23.2%	たまたま受けていない 24.7%
60～69歳	たまたま受けていない 30.1%	面倒だから 19.4%	経済的に負担になる 22.3%
70～79歳	心配な時はいつでも受診できる 35.5%	たまたま受けていない 24.8%	時間がなかった 17.5%
80歳以上	心配な時はいつでも受診できる 44.5%	毎年受ける必要性を感じない 18.2%	苦痛に不安がある 22.3%
			時間がなかった 17.5%
			心配な時はいつでも受診できる 17.5%
			毎年受ける必要性を感じない 21.3%
			たまたま受けていない 18.2%

## がんに関する治療について

### 問11 あなたは、がんと診断されたらどこで治療を受けたいと思いますか。

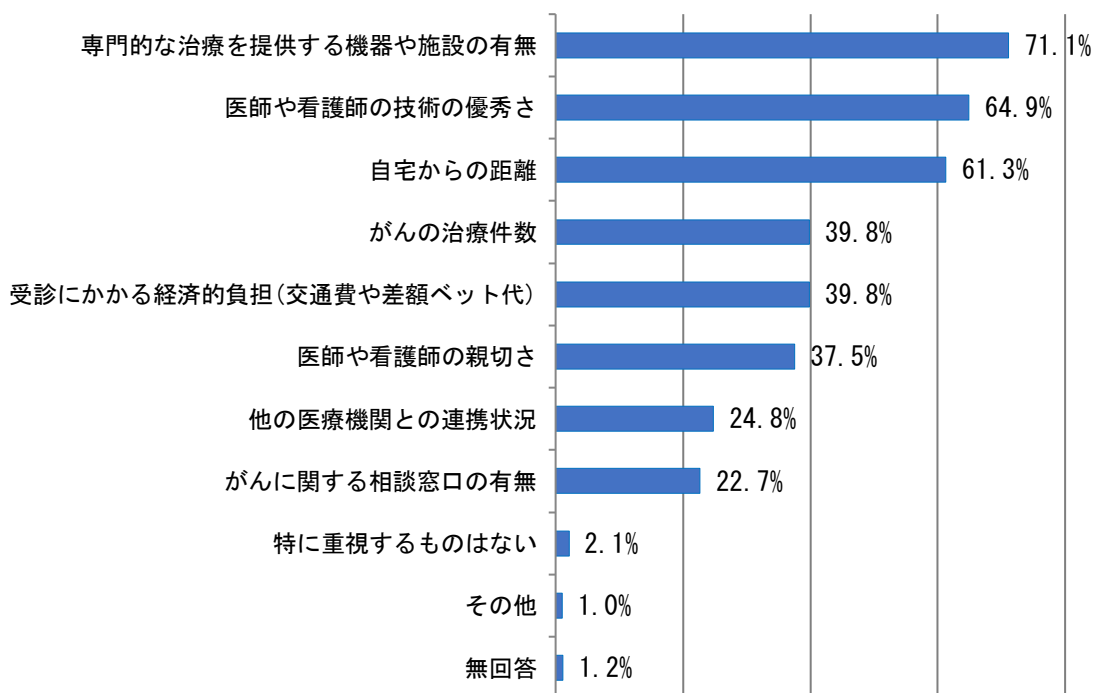
N=1,100



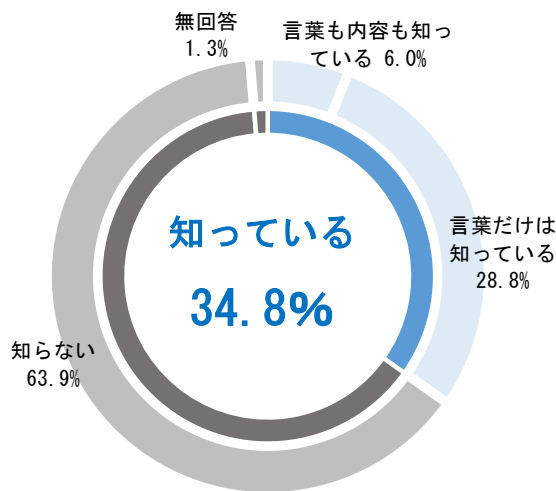
「市内のがん診療連携拠点病院・がん診療連携指定病院(大学病院を含む)」が最も多く**66.7%**、次いで「身近なクリニック・病院」が**9.5%**と続き、市内医療機関での治療を希望する人があわせて**76.2%**

### 問12 あなたは、がんと診断されたら、治療を受ける病院を選ぶにあたり重視するのはどれですか。(複数回答) N=1,100

「専門的な治療を提供する機器や施設の有無」が最も多く**71.1%**、次いで「医師や看護師の技術の優秀さ」が**64.9%**、「自宅からの距離」が**61.3%**と続く

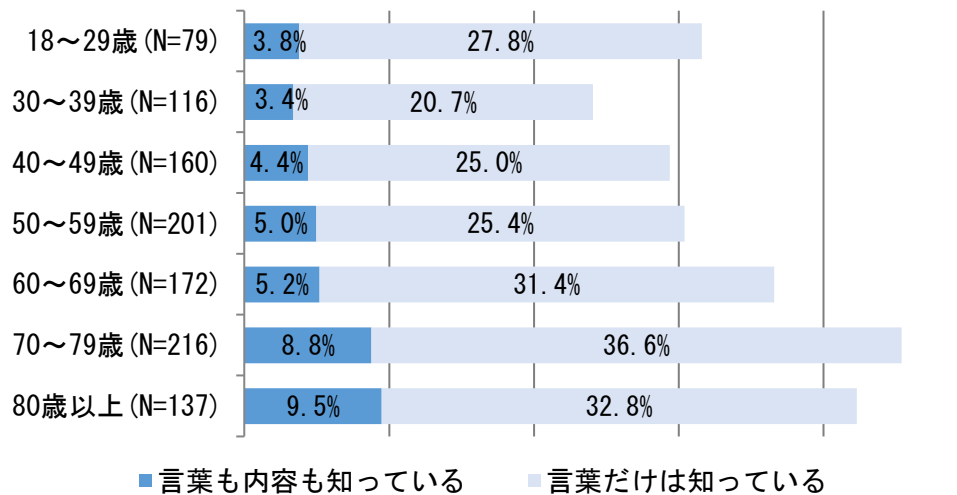


問13 「がん相談支援センター（がん診療連携拠点病院の相談窓口）」を知っていますか。N=1,100



「言葉も内容も知っている」は6.0%、「言葉だけは知っている」は28.8%で、がん相談支援センターを知っている人はあわせて34.8%、しかし「知らない」が最も多く63.9%

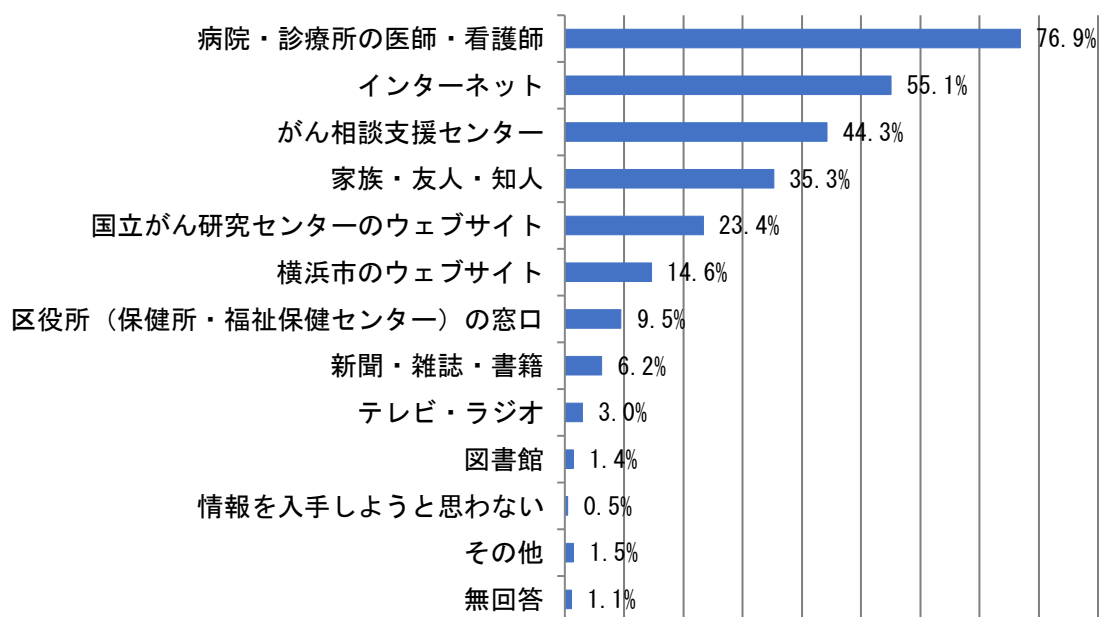
年齢別の回答内訳



年齢別にみると、「言葉も内容も知っている」「言葉だけは知っている」人の割合は、70～79歳が最も多く45.4%、次いで80歳以上の42.3%と続く

**問 14 あなたは、がんと診断されたら、ご自身のがんの治療法や病院について、どこから情報を入手しようと思いますか。(複数回答) N=1,100**

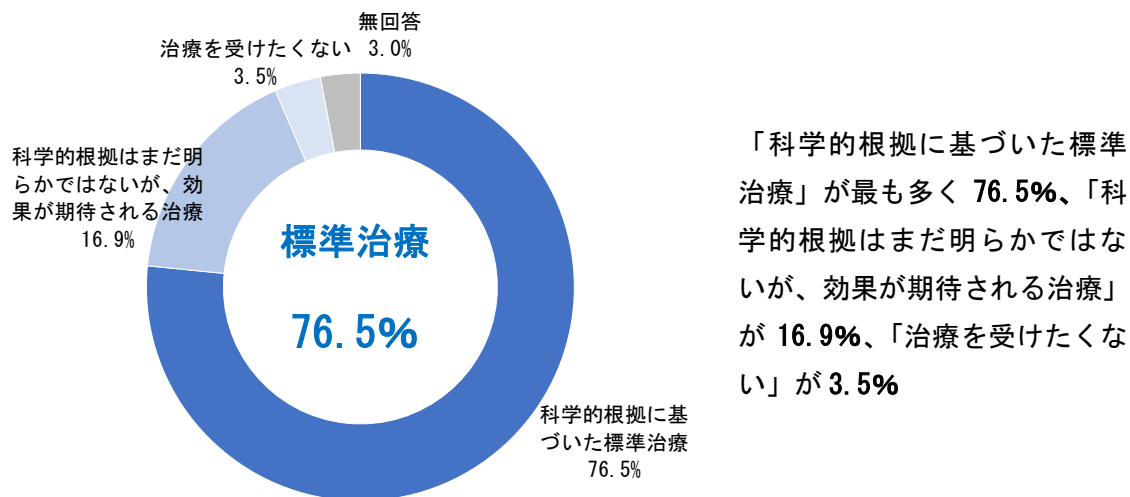
「病院・診療所の医師・看護師」が最も多く 76.9%、次いで「インターネット」が 55.1%、「がん相談支援センター」が 44.3%と続く



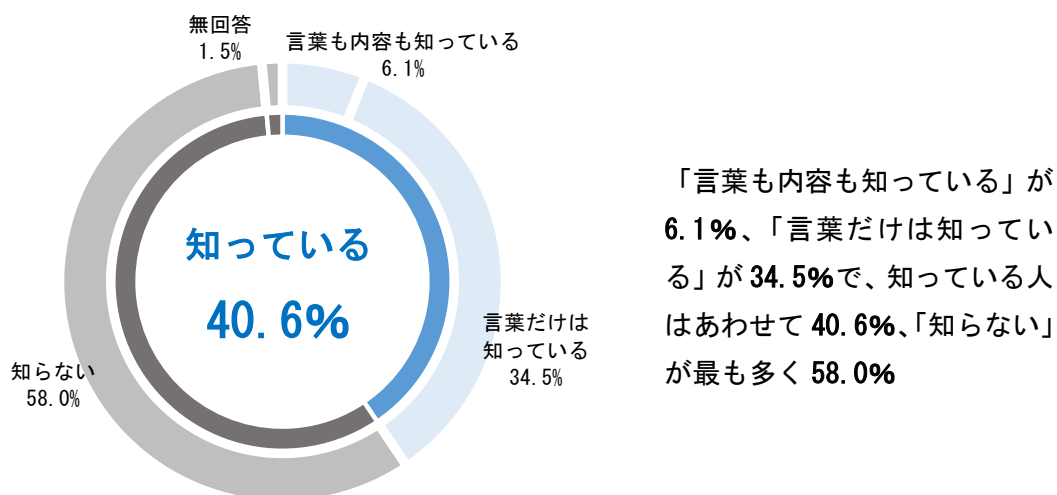
**年齢別の順位（複数回答）**

年齢	1位	2位	3位
18～29 歳	インターネット 78.5%	医師・看護師 72.2%	家族・友人・知人 36.7%
30～39 歳	インターネット 78.6%	医師・看護師 68.4%	がん相談支援センター 47.9%
40～49 歳	インターネット 75.0%		がん相談支援センター 45.6%
	医師・看護師 75.0%		
50～59 歳	医師・看護師 81.1%	インターネット 68.2%	がん相談支援センター 47.8%
60～69 歳	医師・看護師 80.1%	インターネット 55.6%	がん相談支援センター 49.1%
70～79 歳	医師・看護師 79.6%	がん相談支援センター 41.7%	インターネット 37.5%
80 歳以上	医師・看護師 82.0%	がん相談支援センター 41.0%	家族・友人・知人 32.4%

問 15 あなたは、がんと診断されたら、どんな治療を受けたいですか。N=1,100

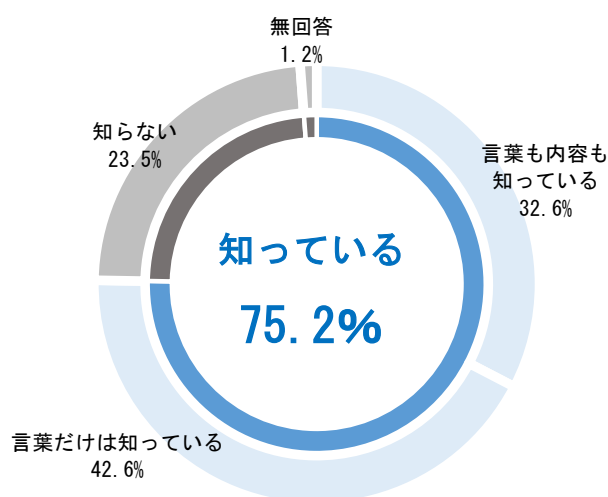


問 16 あなたは、がんゲノム医療について知っていますか。N=1,100



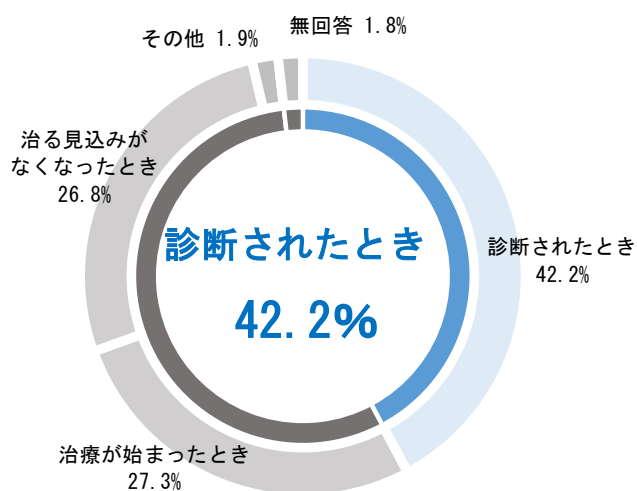


**問 17** がん医療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みを和らげる  
 ことですが、あなたは、がん医療における緩和ケアについて知っていました  
 か。N=1,100



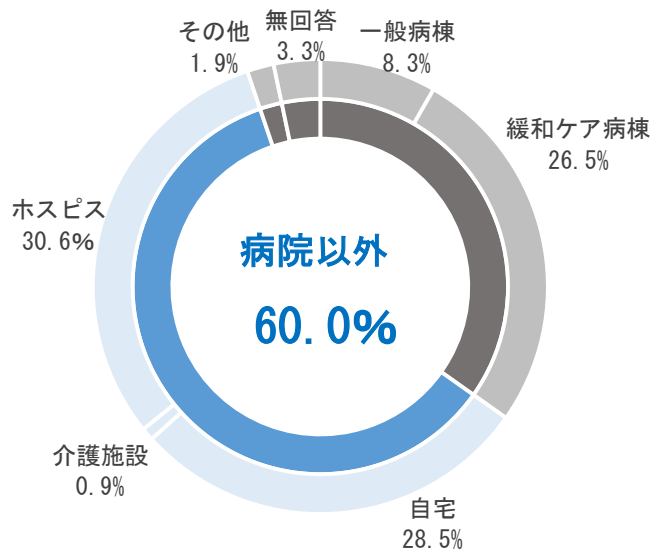
「言葉も内容も知っている」が  
**32.6%**、「言葉だけは知っている」  
 が最も多く **42.6%**で、知っ  
 ている人はあわせて **75.2%**、「知  
 らない」は **23.5%**

**問 18** あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思  
 いますか。N=1,100



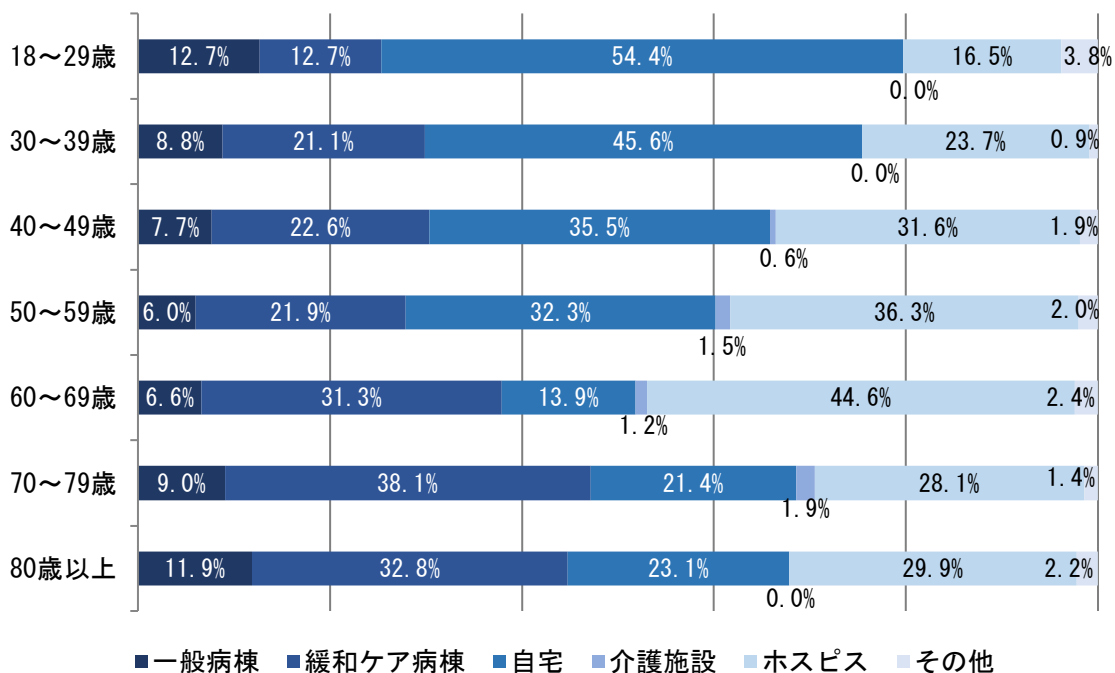
「がんを診断されたとき」が最  
 も多く **42.2%**、「がんの治療が始  
 まったとき」が **27.3%**、「がんが  
 治る見込みがなくなったとき」  
 は **26.8%**

**問19 あなたは、がんに対する終末期の緩和ケアをどこで受けたいと思いますか。N=1,100**



「ホスピス（終末期を安心して過ごせる療養の場）」が最も多く30.6%、「自宅」が28.5%と続き、「介護施設」も含め、病院以外の場で終末期の緩和ケアを希望する人は、60.0%

**年齢別の回答内訳**



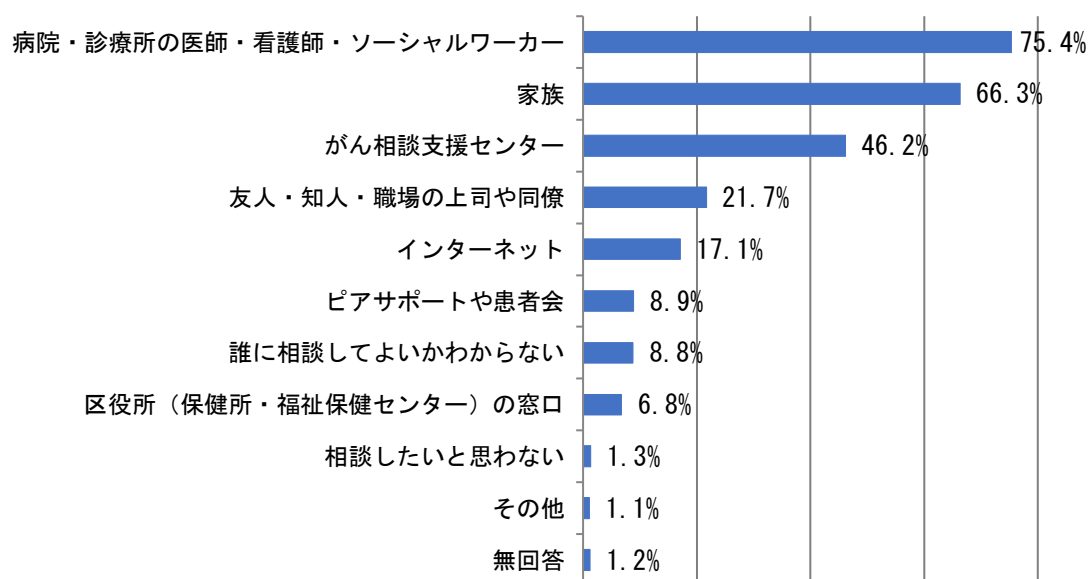
※「ホスピス」…療養の場。穏やかに終末期を過ごす場。ホスピスケアは、終末期のケア。

「緩和ケア病棟」…医療の場。症状を緩和するための場。緩和ケアは、診断された時から提供される様々な苦痛症状に対して提供される医療であり、ケアである。

## がんと共生

問20 あなたは、がんと診断されたら、がんに対する不安や治療などについてだれに相談したいと思いますか。(複数回答) N=1,100

「病院・診療所の医師・看護師・ソーシャルワーカー」が最も多く75.4%  
次いで「家族」が66.3%、「がん相談支援センター」が46.2%と続く

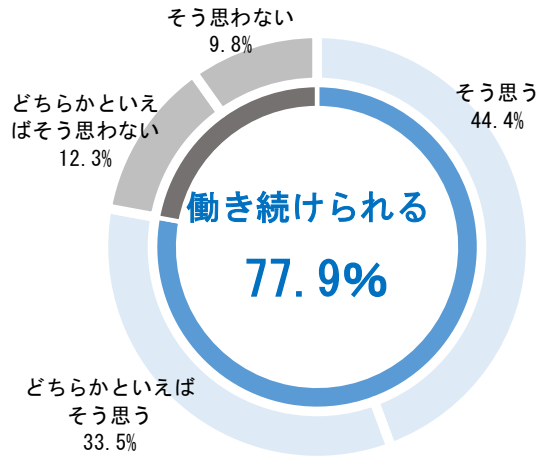


年齢別の順位（複数回答）

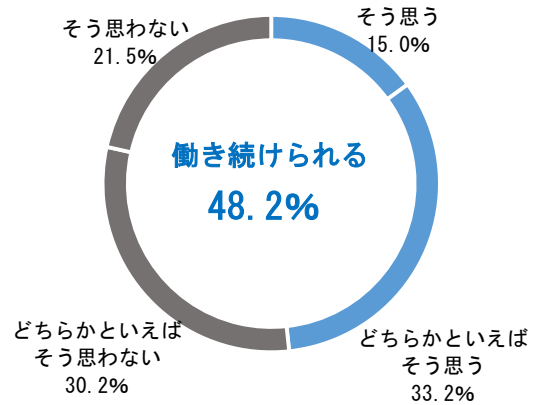
年齢	1位	2位	3位
18～29歳	家族 72.2%	医師・看護師等 69.6%	がん相談支援センター 46.8%
30～39歳	家族 75.2%	医師・看護師等 69.2%	がん相談支援センター 41.0%
40～49歳	家族 65.0%		がん相談支援センター 50.6%
	医師・看護師等 65.0%		
50～59歳	医師・看護師等 83.2%	家族 71.3%	がん相談支援センター 50.0%
60～69歳	医師・看護師等 76.5%	家族 58.8%	がん相談支援センター 58.2%
70～79歳	医師・看護師等 83.6%	家族 67.3%	がん相談支援センター 42.1%
80歳以上	医師・看護師等 76.6%	家族 63.1%	がん相談支援センター 34.8%

**問 21 あなたの職場では、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。N=620**

※有効回答の内訳を表示

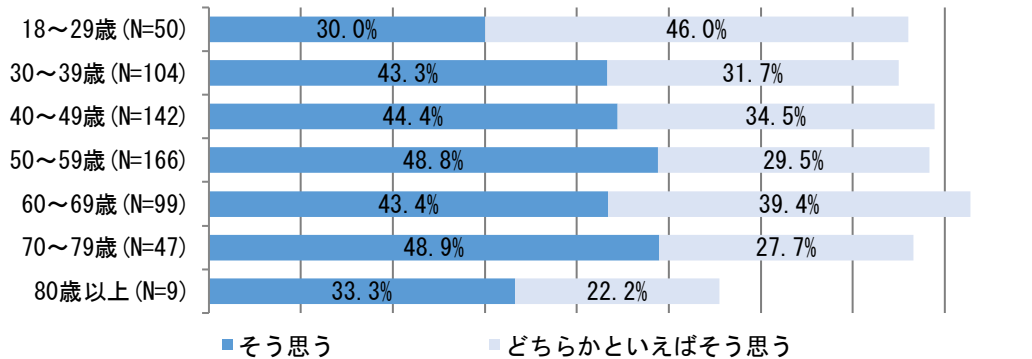


前回調査 (令和2年)  
※働いているかどうかを問わず回答

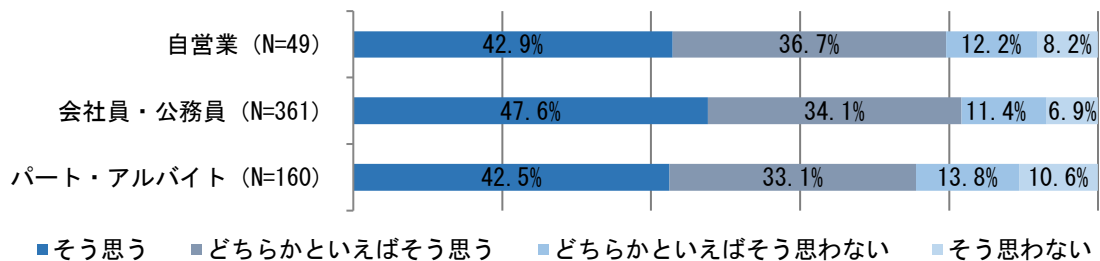


「働け続ける」と思う割合は、前回調査の48.2%から今回調査の77.9%へ29.7ポイントアップした

**年齢別の回答内訳**



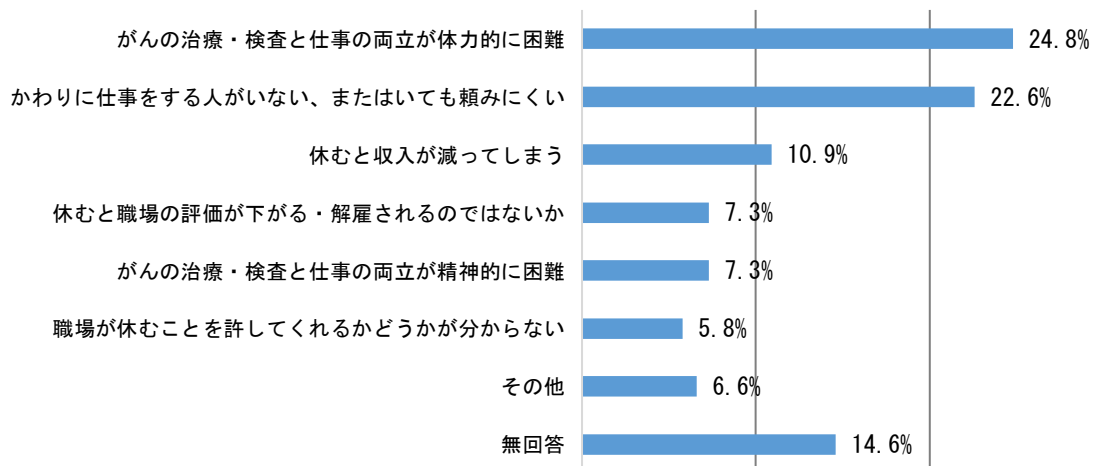
**職業別の回答内訳**



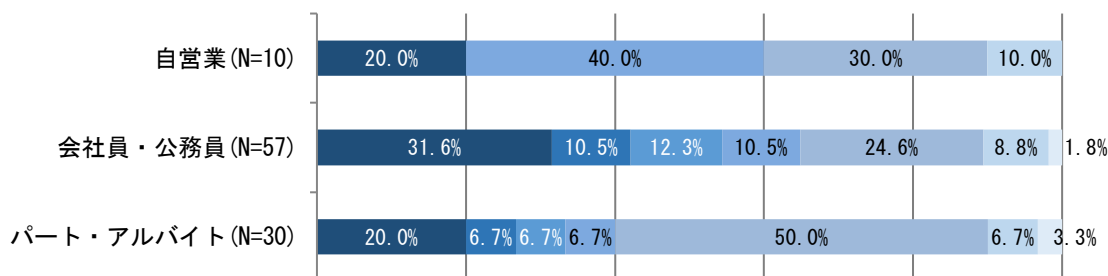
## 問22 がんの治療中に働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか。N=137

※有効回答の内訳を表示（問21で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した人への質問）

「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難」が最も多く**24.8%**  
次いで「かわりに仕事をする人がいない、またはいても頼みにくい」が**22.6%**と続く



### 職業別の回答内訳



- かわりに仕事をする人がいない、またはいても頼みにくい
- 職場が休むことを許してくれるかどうか分からない
- 休むと職場の評価が下がる・解雇されるのではないかと不安
- 休むと収入が減ってしまう
- がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難
- がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難
- その他

自営業では、「休むと収入が減ってしまう」が最も多く**40.0%**

会社員・公務員では、「かわりに仕事をする人がいない、またはいても頼みにくい」が最も多く**31.6%**

パート・アルバイトでは、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難」が最も多く**50.0%**

**問 23 あなたは、がん対策について、市としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。(複数回答) N=1,100**

「がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）」が最も多く **72.5%**  
次いで「がんに関する専門的医療従事者の育成」が **54.2%**、「がんに関する相談やその支援」が **46.9%**と続く

